

アジアクラブ第1回議事録（要約版）

（はじめに）

アジアクラブはアジアを中心とした国際交流促進を目的に企画された当 NPO 法人の分科会の一つです。今日は「タイとの交流について」中井様からお話を聞かせていただくことにしています。タイ国は現在少し国内が揉めている様子ですが、軍部や国王が出てきて最後は治まってくると信じているところです。皆様の御静聴をお願いいたします。

（平成 20 年 11 月 5 日 津浦会長挨拶より抜粋）

・ 講演 『タイとの交流』

講師 中井 博 様

（株式会社協和エクシオ関西支店 I T ソリューション本部長）

・ 講演の要旨

勤務した T T & T はタイに 9 つの保守拠点を持つ首都バンコクを除く全土を管轄していた。活動範囲は全土に及んでいた。

開発途上国相手の海外プロジェクト形態は一般的には ①お金や物を政府機関等が貸す・あげる、②人材を送り出す。これらを有償、無償で援助するやり方と、③お金、物、人材を企業などが持ち込む海外投資のやり方がある。私はこれら三つを全て経験してきた。

タイで苦労したことは ①言葉、②生活習慣・仕事の取組、③信頼関係づくりの三点である。

① 『言葉』、初めての海外の仕事は J I C A のコンサルタントであったが、その時は英語はレポートを書くことで学んだ。英会話学校で習ったが書く方が効果あった。現地会社への派遣時は現地語（タイ語）の必要性を痛感し、スタッフに、「家で今夜見るテレビ番組は？」と聞き、自分も同じ番組を見て翌日その番組内容を互いに会話した。自動車ナンバーでは数を、地図では地形を覚えた。数ヶ月過ぎると慣れが少し進み、大きく目の前が開けた。徒歩、バス、バイク、自転車を使い自動車利用は極力避け、行動範囲は広がった。

② 『生活習慣・仕事の取組』、「餓死することはない。泥棒はいない。」とよく聞かされるほど、タイ人はのんびりと生活する習慣がある。仕事でも、当初は朝 30 分遅刻が常態化している、雨のケーブル障害が出てても時間が来れば放置して帰ってしまう。工期が迫っている仕事があっても時間がくれば帰る。とにかくのんびりしていてプライドは高い。300 人から 3,000 人に社員は増え、リーダーに確りとリードして貰わないと仕事はすすまない。根気良く説得しながら徐々に改善していき、徹夜してでも仕事をするまでになった。

③ 『信頼関係』、資料作る、タイプを打つ、お茶をくむ、メールを送る。社員の担当がそれぞれ決められそれ以外のことには手を出さない。日本の中間管理者のように、資料もタイプも印刷も全てひとりで仕上げてしまうようにはなっていない。私は口より行動で示すのが大事と考え、繰り返し行動で示していった。無理難題を言ってきたりも解決してあげた。土曜日、日曜日に彼等が何処かへ出かけるときは自分も行って行動を共にする。このようにして彼らの心を掴んでいった。

楽しかったこと、うれしかったこと。①仕事の進め方を受け入れてくれたこと ②日本人がゼロの職場に配置されたこと ③現地の人と間違えられること度々 ④達成感の四点である。

- ① 出資比率は日本が 21% (伊藤忠 3%、NTT 18%)、残り 79% は現地。役員数の比率も日本人は 2 人。やりにくい構成であった。しかし、普段の仕事はコツコツと進めていった。これにはプロジェクトの日本企業の協力が得られたことが大きかった。そのうちに仕事の進め方は間違いないとタイ人が仕事を認めてくれるようになってうれしかった。
- ② NTT から 49 人が来ていた。通常、グループを組んで職場に入る場合が多いが、私の職場では唯一人の日本人だった。山田長政の気持で頑張った。現地語で会話できていたので、700 施設の中にあつた「土地ころがし」されている裏事情も掴むことができた。
- ③ 現地の人に間違えられることは嬉しいことか、悲しいことか。ホテル、銀行等では現地語で話かけてくれたことがうれしかった。引越は四度ほどしたが、最後の頃に住んだアパートは日本人が少なく生活を楽しめた。
- ④ 目に見えるかたちで涙を流した社員がいた。現地スタッフと分かり合えたという思い出が特に残っている。

学んだことは、①自国の文化、他国の文化を認め合うこと。②水の大切さの二点である。

- ① 相手を認め合う。文化を認め合う。トイレトペーパー巻紙がテーブルの上にあつてそれを使う。妻は嫌がったが海外に行けばその国の習慣に従う、認め合うことが大切である。トイレでは紙でなく水を使って洗う。これを否定してはいけない。
- ② 生水は飲んではいけない。地方に行くと赤土が塩で白くなっているところがある。ユーカリの木を植林されていたがこれはこの土地の人の水を奪っている。支援とは何かと考えさせられた。

最後に今後の抱負について、①お世話になった地域・人々への感謝、②背伸びしないで協力できるについてお話させていただく。

- ① 年金生活するまで少し時間はあつるが、定年後には井戸を掘りたいと思つている。

② ボランティアをしたいと思っている。

以下、参加者全員で、講師のお話と中心にして話合を進めた。同封資料をもとに、各NPOが所属NPO法人について説明あった。

・タイクラブ副代表河崎太郎様

元大阪外国語大学学長だった赤木攻氏が当クラブ代表で、「タイが好きな人」が集まっている。タイが好きな人なら誰でも歓迎します。タイ語の語学研修、ゴルフ、タイレポート発行、研修旅行、タイ留学生の交流などをおこなっている。タイでは山田長政の個人名を聞いても分かる人は少ない。山田長政 150 年祭が計画されているがタイと日本とは 600 年の長い歴史がある。

・タイクラブ会員で高速道路建設に携われた町井俊徳様

65 年から 68 年にかけてタイとして世界銀行から融資を受けた第 1 号で名神高速を作った日本が建設しその作業に携わった。日本人の感覚が理解されずに苦勞した。飲む水、現場の水に苦勞した思い出が残っている。

・アジア協会の寺岡源治様、坪内廣次様からアジア協会について説明あった。

アジア協会では「水」をアジアと世界に贈る運動を進めている。井戸を掘っている。井戸は婦人自立を促し、子どもに夢と未来を与え、衛生の意識向上により感染症から子どもを護れる。これまで 1,300 の井戸を掘ってきて、設立して 30 周年を迎える。これからも支援をよろしくお願ひしたい（寺岡）。私はアジア協会の会員。カンボジアを訪れて自分で寄付できる範囲内で対応してきている。現地は極貧の状態だが日本人が忘れてしまっている国歌を歌うとか、国旗を揚げるとかが現地にはある。これは貧しいからできることである。カンボジア、ベトナムへ行って、ロングステイでチェンマイに立寄った。エイズ孤児に寄付を続けている。友人は小銭を貯めて文具類を届けている。（坪内）。

その後、セキュリティ、大麻等の社会的な問題、若い人の道徳観、教育制度、宗教観等々について聴衆者との質疑応答が賑やかに展開された。

平成 20 年 11 月 5 日（水） 15:00～17:00

場所 日宝淀屋橋ビル 3 階 3 p 研究所